

熊本子ども囲碁便り

No.18 2013.6.20

発行：NPO法人

熊本子ども囲碁普及会設立準備室

託麻囲碁クラブ内 096-382-0174



第10回 小・中学校囲碁団体戦優勝校

小学校 東町小学校

主将 佐々木仁・副将 清田颯暉・三将 池内光希

中学校 出水中学校

主将 田中一光・副将 上村真由・三将 前島彩乃

6月9日(日)日本棋院熊本県本部において、第10回小、中学校囲碁団体戦熊本県予選が開催されました。小学校4校(玉名町小・東町小・西原小・熊大附属小)、中学校3校(玉名中・出水中・真和中)の熱い闘いがくりひろげられました。代表校は7月28日・29日の全国大会(東京日本棋院)に出場します。



「第37回全国高等学校総合文化祭 囲碁部門熊本県大会」

5月31日(金)・6月1日(土)水前寺共済会館において第37回全国高等学校総合文化祭囲碁部門熊本県大会(主催・熊本県高等学校文化連盟)が開催されました。

試合は男女別の個人戦で行われました。

男子 優勝 橋本淳平(熊本高1年)
準優勝 田中一成(真和高3年)
3位 上村晃弘(人吉高2年)

女子 優勝 西山奈々(真和高3年)
準優勝 橋本優希(第二高3年)

※尚、男子上位橋本君と田中君、女子西山さんは3人の男女混合熊本県チームで全国高校総合文化祭(8月3・4日長崎)の団体戦に出場します。上村君と橋本さんは個人戦に出場です。

団体は男女とも真和高! 「第37回全国高校囲碁選手権熊本県大会」

6月9日(日)第37回全国高校囲碁選手権熊本県大会(日本棋院熊本県本部・県高校文化連盟・RKK)が水前寺共済会館で開催され団体の部は男女とも真和高校が制し代表になりました。個人の部男子は2リーグに分かれ、女子は総当り戦で対戦。各代表は8月3、4日(東京日本棋院)全国大会に出場します。

個人の部 男子・・・田中一成(真和高3年)・橋本淳平(熊本高1年) 女子・・・西山奈々(真和高3年)
団体の部 男子・・・真和高校(田中一成・ジャイル・ストミィ賢治・佐々木光将)
女子・・・真和高校A(西山奈々・田中美沙・田上菜子)

●○県立宇土中学校二回目の囲碁授業●○



6月7日（金）県立宇土中学校において、4月に引き続き第二回目の囲碁授業が行われました。

対象は1年生80名、先生は石倉昇九段（日本棋院）。一時間目は前回の復習を兼ねた講義、二時間目は実戦を行いました。碁盤も表裏がそれぞれ9路盤、19路盤になっている木製の碁盤を使用し、お互いの結果を対戦表に記録しました。生徒の皆さんは目を輝かせ楽しく対局していました。（記 西山）

石倉先生へのお礼状を紹介します。

拝啓 先日まで咲いていた梅や桜が、小さい実をつける時期となりました。いかがお過ごしでしょうか。

先日の囲碁教室では、わざわざ熊本までお越し下さり、ありがとうございました。みんな、本当に楽しそうに囲碁をしていました。終わったあとも、みんな笑顔で囲碁の話をしていました。（先生からのサインがもらえず、心残りの生徒もいるようでしたが・・・）

私は、囲碁をしていて気づいたことがあります。それは、テレビゲームをしている時よりも、囲碁をしている時の方が、みんな笑顔が輝いているのです。囲碁は、老若男女誰でも楽しめます。国籍だって関係ありません。体、碁石、碁盤さえあればだれでも楽しめます。

そんなすばらしい碁をもっとたくさんの人に伝えていって下さい。みんな、きっと先生の囲碁が大好きになってくれるはずです。

もっといろんな人を笑顔にしてあげて下さい。来年もぜひ来て下さい。

そして、ほかの学校の生徒さんにも、囲碁を教えてあげて下さい。

実際、囲碁で笑顔になった80人が応援しています。

敬具

石倉昇先生

平成25年5月

テレビに登場・・・宇土中学校の囲碁授業で中心的役割をされている「熊本母と子の囲碁教室」江藤先生がスカパー囲碁将棋チャンネル「お好み囲碁対局」に出演されます。相手は小松英樹九段・解説尾越一郎八段。この度東京で収録がありました。ぜひご覧ください。**放送は7月21日**です。

佐土原子ども囲碁教室

(熊本市東区佐土原 1 丁目 10-1 TEL・FAX 096-367-1707 渡辺利男)

「将棋人口に追いつき、追い越せ」

先日 (6/15) J T 将棋日本シリーズ子ども大会が熊本市で開かれました。会場 (グランメッセ) が近くでもあり、大会の運営など後学のために観戦に行ってみました。

子どもの大会参加者約 350 人、そしてそれを大きく上回る保護者数あわせて約 1000 人近くの人々で会場は熱気にあふれていました。熊本を皮切りに全国で開催していき、去年のトータル参加者数は 1 万人だったそうです。(東京大会は 3000 人を超えギネスブックに載ったそうです) 受付や会場設営など洗練されており、参加者、観戦者が多いのに会場は整然としていました。将棋盤もすべてゴム盤で、保管や運搬も便利だろうと感じました。

お孫さん二人の観戦に来られていた知人に合って話を聞きましたが、将棋教室などに通っている訳ではなく、学校の友人同士で覚えてやっているだけとのことでした。男の子は、たいてい一度は小学生の頃、将棋を覚えて指せるようになります。囲碁は、どうも難しくてとっつきにくいという思い込みがあって、簡単には広がらないようです。でも、囲碁を打つ人が、あとで将棋に変えたという話はほとんど聞いたことがありません。それほど、ゲームとしての魅力、奥深さは間違いなく囲碁の方が上だと思うのですが……。

7 月末には、NPO 法人「熊本子ども囲碁普及会」の認証がおりると思いますが、どうやって将棋なみに気易く子どもたちに囲碁を普及させていくか、いよいよ本気で知恵をしばり、行動していかなければならないと思っています。



6 月 15 日 (日)

J T 将棋日本シリーズ (於グランメッセ)

見渡す限り会場一杯!

将棋対局を行う子どもたち!!

人吉球磨支部子ども囲碁教室

(人吉市西間上町 2569-2 みのだ内科循環器科内 0966-28-3111 支部長 蓑田耕太郎)

「初心者講座開催」

日本棋院人吉球磨支部 理事 金枝雅治

人吉球磨支部の子ども教室の生徒は幼稚園から小学生まで現在 17 名です。しかし、囲碁のすばらしさ、楽しさをもっと多くの子供達に知ってもらいたいと考えました。そのために幼稚園等で初心者講座を行い、囲碁に興味を持つ子どもたちを増やすことを計画しました。

「人吉幼稚園」と「あいだ保育園」で年長組を対象にそれぞれ 2 日間行うこととしました。都合の良いお母さん方にも参加をお願いし、それぞれ約 30 名から 40 名の参加になり、楽しく囲碁を学びました。支部から先生役として、蓑田支部長をはじめとしてメンバー 6 名が参加しました。



最初に、囲碁のルールを説明し、次に石の取り方を学びました。問題を出すと、みんな元気よく前に来て答えを出してくれます。人吉幼稚園では、年少者も希望者が参加していましたが、その中の小さな女の子が「スミの石を取って下さい」という問題の元気よく手をあげてくれました。前に出てどう答えを出すのかを見ていたら、手で石を取り上げて「取ったよ」という顔をしましたので、これには先生方みんな一本取られました。

その後、石取りゲームの実践を行い囲碁の楽しさを学びました。最後に、参加した人には、紙の囲碁セットをプレゼントしました。

後日聞いたところでは、多くの参加者が家で家族の人と紙の囲碁セットで囲碁をしたようです。

25年度の子ども教室の募集をしたところ、15名の新しい参加者がありました。これは、今回の計画の効果と考えられます。今後も初心者講座等で囲碁を学ぶ機会を設けたいと思います。



大会等のお知らせ

● 大分・熊本交流大会

日 時 6月30日(日) 午前10時～午後4時
場 所 囲碁教室 阿蘇一碁一会・ヒカルの碁スクール阿蘇
会 費 1000円(阿蘇青少年の家での昼食含む)
問い合わせ ヒカルの碁スクール阿蘇(藤崎) 090-2712-2428

大分代表の子どもが参加
しますよ

● 第28回全九州ペアオープン戦

日 時 7月6日(土)～7日(日)
場 所 阿蘇いこいの村(阿蘇市蔵原)
会 費 大人15000円・子ども9000円(宿泊費込) ※日帰りの子どもは3000円
問い合わせ 日本棋院熊本県本部(096-363-4964)

男女のペアなら組み合わせは自由
毎年200名以上が参加します

● 第2回南九州子ども囲碁交流大会

日 時 8月11日(日)
場 所 人吉市東西コミュニティセンター
会 費 1000円(昼食含む)
資 格 幼児から中学生まで(入門の子どもたちも大歓迎です)

夏休みの楽しい思い出をつくりませんか。
入門者から参加できる楽しい大会です。

● 初めての囲碁教室

日 時 7月7日から8月11日(毎日曜日 6回)
場 所 熊本市南区城南町公民館(0964-28-1800)
会 費 無料(小学生以上)

たくさんのお友だちに教えてあげて下さい。
申込は公民館まで・・・お願いします。

各地の教室・・・熊本母と子の囲碁教室(096-370-2263)・託麻囲碁クラブ(096-382-0174)・日本棋院玉名支部教室(0968-74-4968)・一新こども囲碁教室(096-352-7639)・尾ノ上コミュニティセンターこども教室(096-340-8731)・玉名立願寺楽碁長屋子ども教室(0968-73-9008)・RKKカルチャーセンター子ども囲碁講座(096-383-3900)・さくら通り・蓮台寺 親子囲碁交流会(080-3377-0407)

編集後記 高校総文囲碁の参加者が少なくて驚きました。同じ会館の将棋部門は200名程いました。ところが、今月開催されたシルバー囲碁大会では逆転です。200名の囲碁参加者に数十人の将棋。囲碁はいかに一生楽しめるものか分かりました。だからこそ子どもの頃から始めてほしいと願います。宇土中学生徒の「囲碁は楽しい」という言葉が頼もしいです。(記 西山)